

令和2年度 第2回 岸和田市観光振興計画推進委員会

- 1 日時 令和3年1月27日(水) 午前10時00分～12時00分
- 2 場所 岸和田市役所新館4階 第1委員会室
- 3 出席者 委員 【学識経験者】  
石田 信博、小川 雅司、高田 剛司  
【公共的団体の代表者】  
中井 秀樹、井上 實、荻野 元子  
【関係団体の代表者】  
内藤 雅之、安田 博宣、阪口 寿子、高垣 昌仁  
【市民公募】  
榎 和美、南 雅江、稲垣 康子  
【欠席者】  
山本 義治  
事務局 前田魅力創造部長、西河観光課長、畑部担当主幹、高橋担当長  
村瀬担当員  
渡邊、柱本(JTB)  
  
傍聴者 2名
- 4 議事 (1) 第2期行動計画の進捗状況について  
(2) 第2期行動計画の進め方について  
(3) その他
- 5 配布資料  
(1) 配席図  
(2) 岸和田市観光振興計画推進委員会委員名簿  
(3) 岸和田市観光振興計画推進委員会規則  
(4) 第2次岸和田市観光振興計画  
(5) 第1期行動計画の検証と第2期行動計画について  
(6) 第2期行動計画の進捗状況  
(7) 岸和田市観光振興計画の計画年度の変更について  
(8) 岸和田市観光振興計画推進委員会会議録

## 6 内容

### (1) 開会

#### ○前田部長

前回の委員会からの状況としては、感染が急激に広まり、現在では緊急事態宣言が再発令されるなどコロナの長期化を受けている。本日はこれらの状況を踏まえて、改めて第2期行動計画の進め方を中心に皆様からのご意見を頂戴したい。

### (2) 出席状況報告

### (3) 初出席者自己紹介

### (4) 議事(1) 第2期行動計画の進捗状況について

○事務局より「第2期行動計画の進捗状況」を基に詳細を説明

#### ○委員長

プロモーション対策の三城同盟3つのお城の大阪城・尼崎城・岸和田城、和歌山も近いが和歌山城は候補にならなかったのか。

#### ○事務局

大阪城の館長さんを中心にお声がけいただき、三城連携をすることになった経緯があるが歴史的な背景として、西国の要とされている大阪城を中心として、それらの守りとして、西は尼崎城、南は岸和田城ということで、それらが大阪城を守っていたという歴史的背景に焦点を当てているので、この三城となった次第である。

#### ○委員長

現代の感覚で言うと、特に岸和田から見たら大阪も和歌山も同じような位置関係にあるので、観光という観点から見てどうかなという思いで質問したが、和歌山の話がなかった定義はわかった。

#### ○事務局

現代におけるプロモーションにはなるが、歴史的背景を前面に押し出して、まずは歴史好きや、お城好きといったターゲット層を獲得してそこからファミリー層や、ライトユーザーの方にも広めていきたいという思いがあったので、まずは歴史的背景の部分を強調している。

#### ○委員

最後 4 ページ目のところの DMO 研究のところが遅くとも来年度中に観光 DMO の正式認可を目指すところがあるが、DMO は岸和田市独自のものなのか。

○事務局

あくまで KIX 泉州ツーリズムビューローの話である。

○事務局

続いて、臨時交付金を活用した 2 つの事業について、進捗状況を説明させていただく。一点目は、岸和田魅力発見オンラインツアーということで実際の観光地に訪れるということではなく、パソコンやスマートフォンを使用し画面上で旅行体験をしていただくというようなオンライン上でのツアーで、今回事業者を公募型のプロポーザルで提案をいただき選定をして事業者が決定したところである。

今年度中にオンラインツアーの実施を予定している。オンラインツアーは岸和田市としては初めての試みとなるが民間事業者をはじめとしましてコロナ禍の中、オンラインでのツアーが広まりつつあるので、画面上でいろいろな箇所を實際来たかのように体験し、また特産品も事前に送付するなどして、画面を見ながら特産品も楽しんでいただき本当に来た風を感じてもらえるような仕掛けを予定している。

実際の参加の募集が事業者の方から開始されたら、皆様お知り合いの方含め、ご紹介いただければと思っている。

きしわだランチお出かけ事業については、岸和田城、岸和田だんじり会館、きしわだ自然資料館の三館共通券を購入した方に、周辺の飲食店や土産物店で使用できる「きしわだランチお出かけ商品券」を発行する事業を予定していたが、緊急事態宣言を受け、開催時期が見合わせとなっている。

○委員

何社くらいの参加、決定した事業者、どのような基準、メンバーで選んだのか。

○事務局

プロポーザルは 4 社応募があり、プロポーザル方式で、各社から頂戴した提案を庁内の職員で構成された委員の方々に項目ごとに採点いただき、総合点の一番高かった阪急交通社を事業候補者として選定した。

○委員

オンラインツアーの事業について、委員長、副委員長が知らないというのはなぜか。

特産品について、応募した人が商品を自由に選べるというのはないのであれば、本人の嗜好関係なくなるから、申し込む人の範囲が非常に狭くなるのでは。参加しにくくなるのが懸

念されるがどうか。水産物や農産物の活用という話になると、保留課題分に入ってくるが、区分分けが現行のままということであれば、保留課題分のところでツアーが組み込まれていることや、プロポーザルを実施するしないについては見ておく、というような整合性を取っておくべき。

○副委員長

観光振興計画をどれくらいのウエイトで取り入れているのか。

○事務局

観光振興計画を直接的には取り入れていないが、項目としては一点目は、事業全般にかかわる業務遂行力の項目ををあげ、100点中20点を設定。業務遂行に十分な体制がとられているか、業務担当者の業務処理能力、実績は十分かの項目である。岸和田の魅力発信に関する項目としては、オンラインツアーの題材について、観光名所が有効なものであるか、斬新な提案になっているかという項目として10点の配点を設定。事業計画については、直接的ではないが、観光振興計画の趣旨を項目として入れ、本市の歴史文化観光振興が図られる計画となっているか、ニーズを把握した実現性、実効性のある適切な事業計画か、実際に体験したいと思えるような臨場感が味わえる企画となっているかを50点の配点を設定している。あとは、安全管理や、総合評価を残りの配点として設定している。

オンラインツアーとランチお出かけ事業について、国の予算を活用させていただいている。上限ある予算と、非常に日程がタイトであった二つの前提条件があったので、進捗状況に反映しきれていないところである。報告前後してしまい、事後報告となったことお詫び申し上げます。

○委員長

委員会に関係のあることについて、私または、副委員長にまず連絡いただけたらと思う。

○委員

オンラインツアーは、最優先課題のターゲット分析動態調査に関連してくると考えており、今回はヒアリングやアンケートは見送りというようなことを進捗状況で書いているが、オンラインツアーに参加した方のニーズ、なぜそれに参加したのか参加してみてどうだったかを聞けるいいチャンスだと思う。オンラインツアーは単にモノを売るのではなく、プロモーションの一つでもあるため、ターゲット分析にも使えるので、そういう位置づけで積極的に事業を進めていただきたい。

○事務局

今回のオンラインツアーについても、最優先課題、優先的課題分から要素を抽出している。私自身もアンケート調査等の代わりになるものだと思っているので、どういった属性、目的の方が参加しているのか等、しっかり分析していきたい。また、歴史や、若者の Instagram や、一般的な旅行向け等、4つのパターンでオンラインツアーを組んでいるので、その中でコンテンツ対策や最優先課題分の要素を随所盛り込んでいきたいと考えている。

## 議事（2） 第2期行動計画の進め方について

### ○事務局

続いて、第二期行動計画の進め方の中で、計画年度の変更に関して、第二期行動計画を伸ばし、第三期行動計画と一緒にしていくもの。案1は優先度の変更、項目の取捨選択など必要に応じてマイナーチェンジは行ったうえで、残りの期間は一つにまとめていくというもの。案2は、第三次の観光振興計画が一年前倒しとなる形で令和5年度から開始していく案である。この案のほかにも、コロナの長期化を受けての進め方、様々な意見をいただきたい。

### ○委員

観光振興を推進する中で、評価や、企業の売り上げが目に見える形になればいいと考える。

### ○事務局

第一期行動計画が前年度で終了した際に、第二期行動計画を策定していくタイミングで、項目ごとに状況の欄を設け、優先度・緊急度を絞り込むためにまとめたので、今回、第二期、第三期の中で評価をまとめていくことに関しても、いただいたご意見を反映できるよう参考にさせていただきたい。

### ○委員

観光事業者数がどれだけ増えたか、観光収入がどれだけだったか、それが岸和田全体でどうなっているのか、他市と比べることが必要。どこが失敗しているのか、成功しているのかを把握すれば指針が出てくるのでは。

### ○委員

岸和田市への観光客の誘客数等、マクロ的な数字も取りながら、次の計画へシフトしていればいいと考える。

### ○委員長

案1, 2のどちらを選ぶか、3つ目の良い案があるかどうかを決める議案ではないので、積極的にご意見いただきたい。いきなり言うのが難しければ、事務局の方に電話でもメールでもご意見いただくのでも良い。

○委員

根本が総合計画で、その下に観光振興計画があると考えているので、総合計画と観光計画は一緒に歩んだほうがいいのではないかと考える。

○委員

案1だとずるずると後ろに行ってしまう。評価、見直しするタイミングを決めておいた方がいいと思うので、案2が良いかと思うが、案1と案2のメリット・デメリットをご提示いただきたい。

○事務局

案1と案2の違いが生まれてきた背景は、総合計画が令和5年度から開始で、観光振興計画はその下位計画にあたるわけだが、平行しての作業が進めづらい部分があったので、総合計画が出て固まったうえで、観光振興計画に落とし込んでいくやり方を取ろうとした場合、案1の5年度1年間をかけて総合計画を反映したうえで、6年度から観光振興計画という流れになるものとして案1の進め方が出ていた。ただ、前回あったように、次期計画と並行しながらスタートを合わせるというのが、案2の話になるので、一部総合計画の動きと動機が完全に取れない部分が出てくる可能性は残る。

○委員長

今の第二次観光振興計画の始まりはいつからか。総合計画と時間的にぴったり合っていたのか、1年くらいずれていたのか。

○事務局

総合計画としては、長期的な時系列となっていたので、第4次岸和田市総合計画が以前からあった中、観光推進計画がその途中で第一次から第二次に切り替わったという流れになっている。今回がその長期的な総合計画の切れ目にあたるタイミングで観光振興計画も同じ時期を迎える。

コロナ禍の中で、第二期行動計画をどう考えていくかの意見もいただきたい。

○委員

今コロナが右肩上がりの状況なので、早急に答えが出ることはないと思うが、第二期行動計画がどのように評価できるのか、第三期の行動計画を予定していたが、二期をこの期間中の4年にするのか、3年で見極められるのか、で次の第三次観光振興計画を進められるかどうか結論が見えてくるのでは。

○委員長

区切りをつけるか、同時的に進めるか、理想は同時かもしれないが、そのあたりの決断がいる。

○副委員長

一つは現行の第二次行動計画と、ウィズコロナの状態でのマイナーチェンジをするといういくつかのパターンを整理する必要もあるのでは。コロナが全くない状態と、ほどほどの状態と、大変厳しい状態と3つくらいの段階設定をしておいて、どういう環境下におかれても使える計画にしておく必要があるかと思う。

○委員

コロナ禍で打撃を受けている業界が多い。かなりの会社が解散したり、つぶれたりしている。岸和田市の中でどういう影響があるか。産業振興のためにあるいは今ある打撃を少なくするためにどういう手を使っていくかを考えていただきたい。

○委員

アフターコロナ、ウィズコロナの時代に即した在り方を考えていくべき。団体でたくさんの方が一堂に押し寄せるのではなく、この機会に本当にちゃんとした魅力を分かってもらってファンやリピーターを作り上げていくことが大事。そのために情報発信の仕方も計画の中にちゃんと取り込んでいかないと、発信していきまっただけでは、具体的にどれだけの人が見ているのか等分らない。

○委員

第二期行動計画をベースに置きながら、コロナ禍での対応を特出ししてもいいのかと。最優先課題で見ても、ターゲット対策や、受け入れ対策等項目はすでにあがっているので、その中にある今回のコロナですぐに対応しなければならないものは何なのかを入れ込む等の対応の仕方も良いと思う。また、いかに安全安心して旅行してもらえる場所かという、受け入れ対策をきちんとする。コロナだからこそ安全安心面をもっとアピールすることが必要になってきている。そういったことも踏まえると、計画を作り直すということではなく、この計画の中でコロナに特別に対応しなければならない必要な事業を改めて早急に位置づけるという対応をしてもいいのでは。

議事（3） その他

○委員長

続いて、議事の3のその他になるが、先ほどの議事1のことも含めて改めてご意見を願いたい。

○委員

岸和田市でインバウンドで、中国か韓国等をターゲットにモニターツアーみたいなものをしていなかったか。事務局がデータを持っているのか。

○事務局

直接観光課がモニターツアーを行ってはいない。昨年度、インバウンド観光推進ということで岸和田城周辺の賑わいで予算をいただき、1,500人を招客し、その結果をみるということを取り組んでいたが、去年春節あたりからコロナで旅行者の入国がほとんどなくなったので、結果1,500人のところ579名しか招客できずになかなか報告に至っていなかった。

○委員

確か実施する説明はあったが、そのあと具体的な報告はなかった。些細なことでも共有いただきたい。

○事務局

引き続きになるが、今回の進捗状況の中でも岸和田城のARの拡張現実の整備や、南海電鉄岸和田駅の案内板の設置が事業の中にある。部分部分は説明させていただいているが、一つの議題として報告できていないことは申し訳ない。

○委員

魅力創造部の中の農林水産課が市民農園をやったり、農林水産部門と観光部門がうまく連携してできることがあると考えている。

○委員

祭以外に岸和田の観光って何があるか。教えていただきたい。

○委員

去年の春には、ウォーキングと歴史案内を兼ねるということで、6～7kmくらいを岸和田駅から歩いて泉光寺まで行くというようなことを計画していたがコロナで流れてしまった。秋には、城下町の近代建築めぐりを計画しており、33名の応募があったがコロナで中止した。そんな風にまだまだ掘り起こせばあると考えている。

○委員

渡御について、一つの村に一つの神社しか置いたらいけないという時代があったが、その時代にも負けず、ちゃんと残っているところが岸和田はすごいなと感じている。



○委員

私は以前からだんじりとお城。それから、競輪場。うまくいかして産業発展につなげられるのでは。旧寺田財閥という近代では岸和田は東洋のマンチェスターに次ぐ産業発展の町であったということもアピールできるのでは。

○委員

オンラインツアーはこのコロナ禍の中、良いと思う。ただ物を買ってもらって岸和田はこんなところであるという内容もさることながら、次につなげてほしい。次に岸和田に来てもらう魅力を知ってもらうためのチャンスをばらまいてもらうのなら、すごくいいことだと思う。

○委員

南海電鉄の連携周遊プランや、プロモーションに係るところはできるだけ協力させていただこうと思う。岸和田はだんじりが非常に印象強いが、他にもたくさん魅力があると感じる。

○事務局

いろいろな事業をしているところだが、その場で終わってしまわず、しっかり次につなげていけるような形で事業を進めていきたいと考えている。  
次回については、改めて、担当より連絡予定。

○委員長

本日の議事はすべて終了したということで、委員の皆様におかれましては、議事の円滑な遂行にご協力いただき、ありがとうございました。それでは以上で第二回岸和田市観光振興計画推進委員会を閉会いたします。